

セルフモニタリング報告書（令和6年度分）

令和 7 年 4 月 18 日

施設名：大成児童センター
 指定管理者名：シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社
 所管課名：健康こども部 青少年課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価				
1 事業計画の達成度						
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	事業計画に従い適切に運営されました。利用者が以前と変わらず安心して利用できるように最大限努めました。	A	B	C	D	E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	施設利用者数はのべ17,541人となり前年より52%増となりました。乳幼児の行事にも力を入れ、子育てで孤立しがちな保護者の憩いの場となりつつあります。又中高生の利用者数はのべ1,436人となり前年より143%増となり、高校生が学校帰りに寄り、間食、勉強、遊びを友だちと一緒に楽しむ事ができる場にもなっております。	A	B	C	D	E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。		-	-	-	-	-
自主事業は計画どおり行われたか。	計画通り実施する事ができなかったものもございますが令和6年度の実施状況を踏まえ、計画通り行えるようにしていきたいと思えます。 他は一部内容を変更し、計画通り行えたと思えます。大型トランポリンも大成の特色の一つとなり、幼児～高校生まで人気となっています。	A	B	C	D	E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	センターまつりでは、出店販売で以前より連携を取っていた地域の方に一部コーナーをお願いし、昨年度と差がなく提供を行う事ができました。 又、大雪が降った際は地域の方が重機で除雪をしてくれました。 連携としては、未来キッチン（子ども食堂）、社会福祉事業協会（ヤングケアラー相談室）等を開催。関係機関と連携を取りながら児童のより良い環境づくり、に努めました。	A	B	C	D	E
2. 利用者の満足度						
利用者の満足が得られているか。	利用者アンケートでは、満足、やや満足の回答が全体の98%の高評価を頂きました。アンケートの自由欄に、「イベントが多く、楽しい。」「幼児、小学生と一緒に遊べる時間があるといい。」又、「職員への信用・信頼が感じられる。」といったものも見られました。今後も利用者の声に応えられるよう努めていきます。	A	B	C	D	E

<p>利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。</p>	<p>利用児童との日常会話などから児童の本音を聞く事や、アンケートなどで児童の要望の収集。行事の内容、又は企画をする際の参考にし、利用者が楽しんで参加できるように努めました。</p> <p>保護者が来館した際は、必ず挨拶以外の会話をすることを重要視し、色々な意見や要望などを聞くよう心掛け、子育ての悩みや心配ごとにも寄り添い話を聞くよう努めました。</p>	A	B	C	D	E
<p>利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。</p>	<p>意見・要望に関しては日誌や口頭によって必ず全員で共有し、その上で可能な限り迅速に協議し、時には青少年課のご意見を参考にさせていただきながら対応しています。</p> <p>日頃より利用児童・保護者とのコミュニケーションを取る事で信頼関係の構築に努めました。今年度も大きな苦情もなく終える事ができました。</p>	A	B	C	D	E
<p>3 管理運営の効率性</p>						
<p>経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。</p>	<p>館内の修繕や草刈り、除雪などを業者に依頼せず、極力職員の手によって行い、経費の削減を行っています。</p> <p>水光熱費については今年度より児童クラブ室にエアコンが設置されましたが、設定温度に気を配り、無駄なエネルギーを消費しないように対応しました。又、物品購入においては必要度合価格をしっかりと検討し購入しました。</p>	A	B	C	D	E
<p>一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。</p>	<p>消防設備点検・定期清掃業務・警備業務は地元業者に依頼しております。修繕などあった場合は金額は業者決定前に相見積を取り委託をしております。</p> <p>金額面のみではなく業務内容についても精査を行い、最小かつ適切な水準を保っております。</p>	A	B	C	D	E
<p>収入増加のための取組はされているか。</p>	<p>貸館申請が増え、シフト外に対応することもありましたが、職員のシフト変更で対応し、少しでも収入が増加するように努力しました。</p>	A	B	C	D	E
<p>4 適正な管理運営</p>						
<p>職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。</p>	<p>社内動画を利用したオンライン研修、外部のオンライン研修を受講し、能力向上に努めました。又、厚生員の交換研修を2日間行い、他のセンターの環境設備や児童への関わり等を全職員で共有し、さらなる向上に努めました。</p> <p>前半計画書通りに行えなかったものがあるので、来年度は多岐方面でのスキルアップを目標としていきます。</p>	A	B	C	D	E
<p>安全対策（事故防止等）は十分だったか。</p>	<p>館内の日常点検で危険物・破損物などを除去できるようにしています。</p> <p>日常活動では館内の状況を見ながら遊ぶ場所に不具合が生じたら、職員間で共有し、利用者が安全で過ごしやすい環境づくりに配慮しました。</p> <p>又、長期休みで人の多くなる時期は、学年を分ける、遊び方を変えるなどして児童が安全に遊べるように配慮しました。</p>	A	B	C	D	E
<p>人員配置及び職員の管理体制は適正か。</p>	<p>仕様書に定められている人員配置を確保し、管理運営がされるよう努めました。全職員で配置確認表シフト表を確認し、人員配置に不備がないか確認するようにし、最終営業所で確認を行っています。</p> <p>又、配置人数が足りなくなる際は事前に職員間で連絡を取り合い、配置不足にならないよう、利用者の安全を第一に努めました。</p>	適			不適	

<p>施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。</p>	<p>遠方からの利用者が定着し、その利用者が他の利用者を連れて来る事によって、増加につながっています。 又行事については、利用者が参加しやすいよう、可能な限り定員制限を設けずにほぼ全ての行事において、電話での申込みも出来るようにする事により、参加しやすい対応をとるように工夫しました。</p>	適			不適
<p>利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。</p>	<p>個人情報に記載されている書類は鍵のかかるロッカーに保管し、その鍵をさらに保管ボックスにて二重施錠管理しています。 新聞等に写真や記事が掲載する場合は保護者に確認を取り、内容をチェックするようにしています。</p>	適			不適
<p>収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。</p>	<p>入金時には複数の職員で逐一チェックを行い、営業所への受け渡しの際まで鍵のかかるロッカーで保管しています。</p>	適			不適
<p>施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。</p>	<p>法廷点検は外部業者に委託し、適正に管理を行いました。 日常の館内保守点検に関しては、毎日職員が点検表に沿って行い、利用者に安心・安全に利用してもらえるよう努めています。</p>	適			不適
<p>書類・備品等の管理は適正に行われているか。</p>	<p>二重施錠管理している書類以外にも年度項目ごとにファイリングし、保管庫において管理しています。 備品においても故障・破損・補充について営業所に速やかに報告し、適正に管理しています。</p>	適			不適
<p>法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。</p>	<p>全職員がコンプライアンスを重視した管理運営を行っております。 万が一コンプライアンス違反があった場合、本社にコンプライアンス相談窓口があり、いつでも相談出来る体制になっております。</p>	適			不適
5 地域貢献					
<p>雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。</p>	<p>資材調達や外部委託は可能な限り地元業者をお願いしています。雇用に関しては全職員が苫小牧在住となっています。</p>	A	B		C D E

- A：目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B：目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C：概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D：目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E：目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

総合評価



【★の数が5～0の6段階評価で評価しています。】

〈 4 適正な管理運営において不適がある場合、その理由と今後の対応について 〉

指定管理者の自己評価（全体を通して）

指定管理が変わったことにより、利用者が不安に感じることなく以前と変わらない利用ができることを第一に努めてまいりました。

昨年度まで当センターの強みだった子ども食堂などの食事提供事業が、当初今年度は開催が不可能と考えられていましたが、「センターのカレーがまた食べたい！」という児童の声に、何とか開催する手立てはないかと試行錯誤した結果、本社の品質管理等の基準をクリアすることができ、10月に子ども食堂を開催することができました。

今年度は3回の開催でしたが来年度は外部主催(未来キッチン)も含めて、毎月の食事提供事業を行っていきたくと計画しています。

今年度の全体利用者数は昨年度に比べて53%増となりました。特に高校生においては昨年度利用者総数155名から、今年度は総数530名と目覚ましい増加となりました。利用者増のきっかけは当センターに隣接している西高生が球技大会の練習で利用し、こんなに過ごしやすい場所が身近にあることを知らなかったと、その後月曜と木曜の中高生タイムには毎回のように来館してくれています。過ごし方としては友人たちとゲームや運動、談笑、勉強、食事といったもので、家庭でも学校でもないサードプレイスとして定着してきているように感じています。このつながりを一過性のものとならないように更に利用者にとって過ごしやすい場となるように、意見要望を取り入れ来年度の運営に活かしていきたいと考えています。

幼児の利用が少ない当センターでしたが、幼児向けに用意している大型エア遊具や児童にも好評な大型トランポリンを目的として、近隣の保育園や幼稚園が団体に利用していただく機会が今年度は多くみられました。個人の利用者も大切にしつつ、地域にある幼児施設とも連携しながら今後も運営していきます。

今年度もセンターまつりを通して地域の協力を得て行い、又、学校関係との情報共有、各機関と連携を取り、利用者への関わりに反映する事が出来ました。

年々子どもを取り巻く環境が複雑化し、経済的にも厳しい状況となってきています。ここの地域性を考慮し、子どもたちをいろいろな貧困から守るために、地域や学校機関との関係づくりにも力を入れ、子ども、保護者に寄り添うセンターでありたいと考えています。

大きな事故もなく管理・運営できているのは苫小牧市健康こども部青少年課をはじめ多くの方々にご指導を頂いているおかげと考えております。今後も全国企業としてのノウハウを活かした取り組みや地域に根差した活動を行い利用者増加に向けていきたいと考えております。

今後とも健康こども部青少年課の皆様をはじめ、苫小牧市役所の皆様のお力添えを、何卒よろしくご厚意申し上げます。